

令和元年度 第2回学校評議員会 会議録

1 日時 令和2年2月17日(月) 15:00~16:30

2 場所 水沢高等学校 大会議室

3 出席者

○学校評議員

高橋 栄 蔵 岩村 正 明 花田 英 夫

( 後藤 真子 様、千葉 伸一郎 様 は欠席 )

○教職員

校長 及川 晃 貴 副校長 中村 智 和

事務長 高橋 正 美 総務主任 高橋 直 文

進路指導主事 目黒 賢 哉 保健主事 青井 千 明

SSH主任 千田 和 則

4 次第

(1) 開会 (2) 校長挨拶 (3) 令和元年度教育活動の報告

(4) 協議 (5) 閉会

5 協議内容 ○：学校評議員 △：教職員

○ 高校入試において、学区外・県外からの志願者数もいるようだが、学区外からの志願は前からあった制度か。

△ 以前からある制度である。

○ 本校の学区外志願者数は1で、盛岡などの学校と比較すると少ないが、毎年この程度であるか？

△ 例年それほど多くはない。この地区からは、小学校卒業時点で、一関一高附属中学校に進学する生徒もおり、小学校段階で水沢高校に親しませるなどの取組が必要である。

○ 朝の通学時、水沢駅や金ヶ崎駅からは何百人もの生徒が他地区に通学していると聞く。

△ 中学校長との情報交換では、300人位他地区に行くと同った。行き先は、盛岡、花巻、北上、一関など様々な地区の公立高校、私立高校である。私立高校については、授業料に関する支援制度が拡充してきたので、学費面でのハードルが低くなり、進学しやすくなった。

○ 先日、県南地区の3つの工業高校の統合案が示されたが、これは、北上川下流の工業団地等を意識した統合なのか。

△ そのような側面はあると感じている。また、ILCへの対応も念頭に、県南地区に、多様な学科を有する大規模工業高校の設置を検討しているのではないかと思う。

○ 大規模な工業高校が設置されることで、本校SSHへの影響はないのか。

△ 本校のSSHでは、大学に進学して研究者を目指すような理数人材の育成を図っているが、工業高校においては、大学進学も考えられるが、高校卒業後に就職してILC推進を支える人材の育成ということが考えられ、進路の面では違いはあると思われる。ただし、設置する工業高校の性格付けは、今後作成される成案によるので、工業

系の大学に進学をさせるといった特色をもたせる場合は、SSHへの影響について対応がせまられると思う。

- 今後も、SSHの特色を全面に押し出していくのか。
- △ 本校のSSHは現在、指定4期目の指定期間のうち残り2年であり、その後のことは今後検討していく。今年度の入学生から、SSHなどの研究指定を受けていない学校でも、必ず探究活動に取り組むこととなっているので、本校としては、今までのSSHでの取組をベースに、効果的な探究活動の取組をとおして生徒の育成を図ってきたい。また、他校に、本校の取組事例を提供していくことも重要になってくる。
- 生徒と保護者対象の学校評価アンケートは無記名で実施しているのか。
- △ 無記名である。
- 学校評価アンケートで、例えば、項目「学校生活が充実している」の評価度では、生徒はわずかに上昇（昨年度81.9%→今年度82.0%）し、保護者はわずかに下降（昨年度81.5%→今年度81.4%）している。また、項目「自分のクラスが楽しい」の評価度では、生徒はわずかに下降（昨年度86.9%→今年度86.4%）し、保護者ではわずかに上昇（昨年度80.7%→今年度81.1%）しているなど、傾向の違いがみられるが、何か所見はあるか。
- △ どちらの項目も、評価度80%以上という高い評価をいただいている中での若干の違いであり、全体的には大きな違いはないと考えている。ただし、保護者の項目「お子様が、本校に入学してよかったと思う」の評価度が25年度の88.7%から今年度の84.6%と数年かけて下降傾向にあることには留意していかなければならないと感じている。
- 生徒の学校評価アンケート項目「先生は、分かりやすい授業をしている」の評価度が上昇傾向にある、素晴らしいと考えているが、何か対策をしているのか。
- △ 現在の学習評価では、4つの観点「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のを総合的に評価する「観点別評価」を行っており、授業構成も、いわゆる知識詰め込みではなく、授業内容に興味や関心をもたせるような工夫や生徒が発表する場を設けるなどして思考力や表現力を育成していくような工夫をしている。また、互見授業という取組で、教員が相互に授業を見合って、授業力を高める取組を行っている。
- 教員の学校評価アンケートにおいて、SSH事業に関する項目の評価が低くなっているとのことだが、生徒が課題研究に時間を割かれ、学力低下など他の教科の学習に差し支えがあると捉えられているということか。
- △ 以前は、学力といえば「知識」が大きなウェイトを占めていたが、現在は、「興味・関心」や「思考力・判断力・表現力」も必要な学力とされており、これらの学力は、探究活動などを通じて育成することが求められている。課題研究が、探究する手法を身に付け、他の教科の知識・理解を深める「思考力・判断力・表現力」を育成していく科目であるといった共通認識がたりないので、やっているんだけど、時間をかけている割には、実りが少ないのではないかと考えている教員もいると思われる。
- 働き方改革について、タイムカードにより時間管理しているとのことだが、先生方が自主的に学校に残り、研究したい場合はどのようなようになるのか。

- △ 現在は、在校時間が記録されているが、今後、勤務時間と個人の意思による研究活動の時間は、在校しているけれども勤務時間とはしない扱いとしていくことも考えられる。一方で、在校時間を勤務時間と同じように扱わないと長時間労働はなくならないと考えられ、自主的な研究時間を勤務時間に含めないこととしても、在校時間を減らしていかなければならないと考えている。
- アンケート結果は、先生方にフィードバックし、議論するなどして、校務運営に活用しているのか。
- △ フィードバックはしているが、時間をかけた議論までには至っていない。次年度計画を立案する際の資料として活かしている。
- 1年生の医学系希望者が多いようだが。
- △ その通り、現在の1年生は医学系希望者が多い。奥州市の奨学金なども紹介しているので、私立大学医学部も視野に含めて検討しやすい状況もあると考えている。
- 貧困により、学習に支障がある生徒はいるのか。奨学金などの活用により、そのような生徒の支援ができているのか。
- △ 授業料支援について、就学支援金、奨学給付金の2つの制度があり、家計が厳しい家庭には、授業料相当金額の補助があるので、手当はされていると思われるが、大学進学を志望する段階で、経済的理由から、保護者が国公立縛り、岩手県縛りなどをおっしゃるところはある。我々としては、広く、学びたいことが学べる進路を検討し、志望して欲しいと思っている。